

トリフルラリン粒剤 トレファノサイド粒剤 2.5	取扱メーカー： 日産 原体メーカー： ゴーワン
成分： トリフルラリン〔ジニトロアニリン系 PRTR・1種〕…2.5% その他の PRTR 該当成分： バリゴルスカイト〔PRTR・2種〕……………86%	性状： 黄灰色の細粒 毒性： 普通物 消除法： ——

【品目特性】……………

- 非ホルモン・吸収移行型の除草剤で雑草の発芽時に幼芽・幼根から吸収され、分裂組織の細胞分裂を抑制し生育を抑える土壌処理型除草剤。
- 土壌中の移動性は小さく、降雨の影響を受けにくい。
- 気化した有効成分が、土壌中を拡散し安定した処理層を形成する。
- 有効成分の特性は参考資料の「有効成分特性一覧表」を参照。

【使用上のポイント】……………

- 処理時期を大別すると次の4通りになる
 - は種後：は種後全面土壌散布する（雑草発生前）
 - 定植前：畦立整地後（植穴堀前）に全面土壌散布（雑草発生前）をして、その後に移植する。
 - 定植後：定植後（雑草発生前）に作物にかからないように畦間土壌散布をする。
 - 生育期：作物にかからないように畦間散布する。
- 効果をあげるための処理方法
 - 砕土をできるだけ細かくする。
 - 必ず雑草発生前に散布する。
 - 土壌が乾燥している場合、灌水するか、降雨の後に散布する。

【効果・薬害等の注意】……………

- トンネルやハウス栽培などの作型では、トリフルラリンが気化して薬害のおそれがあるので、特別な注意が必要。
- 雑草の発生前に、土壌に均一に散布する。処理時に発生している雑草には効果が期待できない。
- 風によってまきムラを生じやすいので注意する。

●畑作物のは種後に使用する場合には、作物が出芽してからの使用は薬害を生じるおそれがあるのでさける。

●イネ科雑草に比べ広葉雑草に対してはやや効果が劣るので、イネ科一年生雑草の優占する圃場で使用するのが効果的。

●畦間、株間に使用する場合には、作物にかかる薬害を生じるおそれがあるので、かからないように使用する。また実散布面積に応じて使用量を調節する。

●野菜及び畑作物に使用する場合には、砕土及び整地はいいねいに行っておく。また、覆土は細かく砕いた土を用いてうすすぎないように丁寧に行う。特に、麦類、陸稲、さやいんげん、あずきは薬害を生じやすいので、覆土深は2～3 cm になるように注意する。

●直播のはくさいに使用する場合には、露地栽培（無マルチ）で使用する。

●すいか、メロン及びかぼちゃに使用する場合には、薬害をさけるために特に次の注意を守る。

- 定植7日以上前に散布し、マルチをかける。その後、定植の数日前に定植箇所のマルチを切開し、気化した薬剤を飛散させてから定植する。
- 定植後、株のまわりのマルチを本剤のかかっていない土壌でおさえる。この場合、キャップは使用しない。

○生育期の畦間（トンネル間）に散布する時は、茎葉にかからないようにするために必ずトンネル除去前に散布する。

●きゅうりに使用する場合には、薬害をさけるために次の注意を守る。

- 砂壤土での使用はさける。
- 地這栽培では使用しない。

○直播きゅうりの場合には、は種後の覆土を厚くし、まきつぼをおがくず、切りわりなどで覆つ

●レタスまたは非結球レタスに使用する場合には、薬害をさけるため定植5日前までに散布する。

●共通注意事項 8. 適用作物群に関する注意事項を参照。

●散布器具・容器の洗浄水及び空容器は適切に処理する。



作物名	適用場所	適用雑草名	適用土壌	使用時期	10 a 当り 使用量	本剤の 使用回数	使用 方法	適用 地帯	トリフルラリンを含む農薬の 総使用回数
キャベツ (移植栽培) ブロッコリー (移植栽培) はくさい (移植栽培)	—	一年生雑草 (ツユクサ科, カヤツリグサ科, キク科, アブラナ科を 除く)	—	定植前 (植穴掘前)	4～6 kg	1 回	全面土壌 散布	—	1 回
なばな (移植栽培)					4 kg				
はくさい (直播栽培)				3～5 kg	は種直後				
なばな (直播栽培)				4 kg					
みずな (直播栽培)				3 kg					
なたね				4～5 kg					
レタス (トンネル・ マルチ栽培) 非結球レタス (トンネル・ マルチ栽培)				定植前 (植穴掘前) (マルチ前)	3～4 kg				
ねぎ わさび あさつき				4～5 kg	2 回 以内	2 回 以内			

作物名	適用場所	適用雑草名	適用土壌	使用時期	10 a 当り 使用量	本剤の 使用回数	使用 方法	適用 地帯	トリフルラリンを含む農薬 の総使用回数	
ト マ ト (露地栽培) ミニトマト (露地栽培)	—	一年生雑草 (ツユクサ科, カヤツリグサ科, キク科, アブラナ科を 除く)	—	定植前 (植穴掘前)	4～5 kg	1 回	全面 土壌 散布	—	1 回	
ゆ う が お				定植キャップ後 (雑草発生前) 但し、収穫75日 前まで	4～6 kg					
漬物用すいか (トンネル・ マルチ栽培)				定植前 (植穴掘前) (マルチ前)	2～4 kg					2 回 以内
す い か (トンネル・ マルチ栽培)				収穫45日前まで の生育期 (トンネル除去前)	4～5 kg					
漬物用メロン (露地栽培(トンネル・ マルチ栽培))				定植前 (植穴掘前) (マルチ前)	2～3 kg	1 回	全面 土壌 散布			
メ ロ ン (露地栽培(トンネル・ マルチ栽培))				収穫45日前まで の生育期 (トンネル除去前)	4～5 kg	2 回 以内	畦間 土壌 散布			
か ぼ ち や (トンネル・ マルチ栽培)				定植前(植穴掘前) (マルチ前)	2 kg		全面 土壌 散布			
と う が ん (露地栽培) と う が ん (トンネル栽培)				収穫45日前まで の生育期 (トンネル除去前)	4～5 kg		畦間 土壌 散布			
き ゅ う り (露地栽培 (移植栽培))				壤土～ 植土	定植前(植穴掘前)	3～4 kg	1 回	全面 土壌 散布	全域	
き ゅ う り (露地栽培 (直播栽培))					は種直後					
な す (露地栽培)				—	定植前(植穴掘前)	4～5 kg		畦間 土壌 散布		—
さやいんげん (露地栽培)					定植直後					
さやいんげん (露地・マ ルチ栽培)			は種直後		4～6 kg	全面 土壌 散布				
に ん じ ん			は種前(マルチ前)							
し ょ う が 葉し ょ う が			は種直後							
			植付直後		6 kg					

作物名	適用場所	適用雑草名	適用土壌	使用時期	10 a 当り 使用量	本剤の 使用回数	使用方法	適用地帯	トリフルラリンを含む農薬の総使用回数
みょうが(花穂)	—	一年生雑草 (ツユクサ科, カヤツリグサ科, キク科, アブラナ科を 除く)	—	萌芽前 (雑草発生前)	6 kg	1 回	全面 土壌 散布		1 回
みょうが(茎葉)				萌芽前 (根株養成圃) (雑草発生前)					
たまねぎ(本畑)				定植前 (植穴掘前)	4 ～ 5 kg	2 回 以内		畦間 土壌 散布	2 回 以内
				定植後 但し、収穫 75 日 前まで					
				生育期 (春期) 但し、収穫 75 日 前まで					
ばれいしょ				植付後～萌芽前	1 回	全面 土壌 散布	1 回		
か ん し ょ				挿苗前 雑草発生前				3 ～ 4 kg	
				挿苗後 雑草発生前 但し、収穫 60 日 前まで					
				さ と い も	植付後 但し、植付 7 日後 まで	4 ～ 6 kg	1 回	全面 土壌 散布	—
さといも(葉柄)				植付後(マルチ前) 但し、植付 7 日後 まで					
やまのいも やまのいも(むかご)				植付直後	畦間 土壌 散布				
				生育初期 但し、植付 30 日 後まで					
ら っ か せ い				は種直後	3 ～ 6 kg	2 回 以内	全面 土壌 散布	2 回 以内	
こんにゃく				植付直後、中耕培 土直後 (萌芽前)	4 ～ 6 kg				
ら っ き ょ う (露 地 栽 培)				植付後、春期雑草 発生前 但し、収穫 120 日 前まで	4 ～ 5 kg	2 回 以内	全面 土壌 散布	2 回 以内	
さんしょう(葉)				定植後雑草発生前 但し、定植 7 日後 まで	5 kg	1 回			1 回
茶				1 番茶発芽前、摘 採後 (雑草発生前) 但し、摘採 40 日 前まで	4 ～ 6 kg	2 回 以内			全域 (北海道 を除く)
あ ず き				は種後出芽前		1 回	1 回		

作物名	適用場所	適用雑草名	適用土壌	使用時期	10 a 当り使用量	本剤の使用回数	使用方法	適用地帯	トリフルラリンを含む農業の総使用回数	
だ い ず え だ ま め	—	一年生雑草 (ツユクサ科, カヤツリグサ科, キク科, アブラナ科を 除く)	砂壤土 ～埴土	は種後出芽前	4 ～ 6 kg	1 回	全面 土壌 散布	全域 (北海道 を除く)	2 回以内 (全面土壌 混和及び全 面土壌散布 は合計1回 以内, 畦間 土壌散布は 1回以内)	
				定植前(植穴掘前)			畦間 土壌 散布			
				生育期 但し, 収穫45日 前まで						
に ん に く				植付後, 春期中耕 除草後 但し, 収穫90日 前まで	5 kg	2 回 以内	全面 土壌 散布	全域	2 回 以内	
		植付前								
直 播 水 稻		ノビエ	—	乾田直播のは種後 出芽前 (ノビエ発生前) (入水15日前ま で)	4 ～ 5 kg	1 回	乾田 状態で全 面土壌散 布	—	1 回	
陸 稻			一年生雑草 (ツユクサ科, カヤツリグサ科, キク科, アブラナ科を 除く)	砂壤土 ～埴土	は種後出芽前	4 kg	2 回 以内	全面 土壌 散布	全域 (北海道 を除く)	2 回 以内
麦 類		生育期雑草発生前 但し, 収穫45日前 まで			4 ～ 5 kg					
樹 木 類		—				植付後, 生育期 (雑草発生前)		4 ～ 6 kg	畦間・ 株間土 壌散布	
桑 (本 畑)					桑発芽前, 春切後, 夏切後 (雑草発生前)	全面 土壌 散布				
た ば こ				大土寄直後	4 kg	畦間 土壌 散布	全域	1 回		
た ば こ (折 衷 マ ル チ 栽 培)		秋期施肥畦立時 マルチ前 (植付 3 ～ 5 ヶ月前)		3 ～ 4 kg	全面 土壌 散布					

作物名	適用場所	適用雑草名	適用土壌	使用時期	10 a 当り使用量	本剤の使用回数	使用方法	適用地帯	トリフルラリンを含む農業の総使用回数
樹木等	公園, 庭園, 堤 とう, 駐車場, 道路, 運動場, 宅地, のり面等	一年生雑草 (ツユクサ科, カヤツリグサ科, キク科, アブラナ科を 除く)	—	雑草 発生前	4 ～ 6 kg	3 回 以内	植栽地を除 く樹木等の 周辺地に全 面土壌散布	—	3 回 以内